

Amir Tsarfati 氏  
2018年12月5日公開  
クリスマス、それともハヌカ?

旧市街の壁の電飾がご覧いただけるでしょう。つい先ほど、ハヌカの点灯式のようなものが終わって、その後、コンサートや歌が行われています。



ハヌカのエルサレム旧市街の夜景をバックに（動画より）

皆さんにも、後ろから音楽が聞こえるのでしょうか。ともかく、あちらよりもこちらのメッセージがきちんと聞こえると良いのですが。

では、9時になりましたので、始めたいと思います。お祈りをしてから、「ハヌカ、もしくはクリスマス、私達はどちらを祝うべきか？」のメッセージをお伝えします。

お父様。ありがとうございます。

あなたの御言葉、あなたの約束に感謝します。

また、あなたは、あなたの子供達が、時代と季節を知るだけでなく、私達が、ここから取り去られるまで、あなたの御心とご計画、人生の指針を理解することを望んでおられます。

お父様。私達を早く連れて行ってくださるよう祈ります。

また、私達に携挙の準備が出来ているよう、祈ります。

しかしそれまでは、お父様、あなたは私達に、従事しているように命じられました。

私達に、あなたの仕事に励むように命じられ

私達に、あなたを反映する生き方をするようにと命じられました。

私達が、キリストの使節となるように。

ですからお父様。今日、この話題に取りかかるにあたって、世界中で非常に多くの人が、これを気にしていますが、私達に、御霊の語りかけに目を向け、耳を傾けられるようにしてください。

イエスの御名によって。アーメン

アーメン。

皆さん、シャローム。アミール・ツアルファティです。エルサレムよりライブを行っています。背後には、エルサレム旧市街の壁の、美しい電飾が見えています。

今日は、非常に重要な話題について、お話ししたいと思います。このことで、世界中のキリストのからだがある意味分断しそうです。

私は、世界中を訪れ、多くの人にお会いして、同時に、イスラエル出身で、私自身の民族の中に住む者として、こんにち、私達が代表している、ほぼ全てを理解する心を、神が私に与えてくださったのだと思っています。しかしながら、どうか、皆さん、へりくだって、メッセージを御言葉の視点から考慮してくださるよう願います。あなた自身の信念や、頑固さからでなく。

どうか、柔軟に、そして、信者が持つべき権威は、唯一、御言葉であることを覚えていてください。御言葉が、権威です。

それから、聖書が何と告げているか、また、イエスが、2千年前に何をされたか、彼は神であると知り、彼が私達の前に方向を示す方であることを知り、その上で、それを読めば、こんにちの私達が、何をすべきなのか、理解する助けになると思います。

まず、初めに、次のことをお伝えしたいと思います。この数日間、エルサレムはお祭りムード一色です。私達は、ハヌカを祝っています。ハヌカは、簡単に目に留まる祭りです。皆が、ろうそくを灯しますから。ハヌカ用の枝付き燭台は、ほとんど全ての家庭、全ての街角、全ての町に置かれています。ちなみに、世界中で、ですよ？

私は、ろうそく点火式典をマンハッタンで行われているのを見ましたし、ベルリンでもありました。もちろん、世界中で主要なユダヤ人コミュニティでは、ほとんど、どこでも行われています。これはある種、ユダヤ人が彼らの“クリスマス”光の式典を、外で行なっている感じです。

誰もが目にするように。

それから、言っておかなければならないのは、「クリスマス」と「ハヌカ」の話題について議論する時、私達は、一つのことを、覚えておかなければなりません。

これらは両方とも、冬の間祝われる祭りで、この祭りは両方とも何らかの形で、光の出現と宣言を表明する祭りです。

そして、これらは両方とも・・・よく聞いてください。

両方とも、聖書的ではありません。これらは、聖書の中で私達に命じられている祭りではありません。ところで、神は、彼の命令として、私達ユダヤ人が祝うべき祭りとその理由に関して、非常に明確にしておられます。

事実、私達の全員が知っている通り、レビ記23章には安息日を除いて、七つの祭りをユダヤ人・イスラエルの民に与えられました。

その全ては、過ぎ越しの祭り、種なしパンの祭り、初穂の祭り、五旬祭、シャブオット（七週の祭り）、ラッパの祭り、ヨム・キプール、そして、仮庵の祭り。

これらが、レビ記23章に指定されている、七つの主の祭りです。

しかしながら、私達が皆知っている通り、人々が通常祝ってきた、聖書的な祭りだけでなく、さらに、歴史の中で起こった、ある特定の出来事から生まれた、伝統があります。

私達が忘れてはならないのは、こんにち、人々がハヌカを祝っているのは、50年前、100年前にも、人々が祝っていたからです。

さらに言えば、1000年前、もっと言えば2000年前にも、祝われていたのです。

私は、それを知っています。これから聖書を見ていきますが、その中で、イエスさえもハヌカの時、エルサレムにいましたから。

だから、私達は覚えておかなければなりません。それが、聖書的な祭りであろうとなかろうと、すでに与えられている事実的状况、世界中で人々が祝っている、伝統的な祭りがいくつかある、ということです。

次に、私は、なぜ、ハヌカが祝われているのか、なぜ、クリスマスが祝われているのか、皆さんに、深く説明することも可能です。しかし、それをすれば皆さんは、死ぬほど退屈するでしょう。

ハヌカは、もちろん、聖書的なイスラエルの歴史とは一切関係ありません。

これは、マカバイ書の中の話で、マカバイ書とは、外典で、聖書の一部ではありません。

これは、ペルシャとローマ、ギリシャ時代のイスラエル国家の歴史的な記述で、ギリシャに大勝利した話です。私達が、どのように宮をきよめたかが書かれています。これは、素晴らしい話、ものすごい歴史の一部で、覚えておくべき事です。

ただ、もう一つ皆さんに覚えていて欲しいのは、ハヌカの祭りと、それに共通するものが、第二神殿の時代、ユダヤ人達にとって罠となった点です。

なぜかという、マカバイがギリシャに対して勝利することを、神が許されたように、彼らは、彼らがローマに敵対する時も、神が共にいてくださると、すっかり確信していたのです。

しかしそれは、大間違いでした。

なぜなら、神は、ローマが神殿を破壊するのを許されたのです。それは、ダニエルによって預言されていたことで、イエスも預言していました。主は「神殿が破壊され、エルサレムが包囲される」と語り、それが起こりました。ですから、ユダヤ人達が祝っていた伝統が、後には、ほとんど畏になったのが分かります。彼らは、将来も同じようになると考えていたためです。だから、これは非常に重要なのです。多分、マカバイ書のような、歴史的な記述を覚えておくのは、良いことでしょう。しかし、私達は御言葉を見て、聖書を唯一の権威とすることが非常に重要です。2000年前、ユダヤ人の支配者層が、御言葉を読み、ダニエル9章を読んで、そして、イエスの言葉に耳を傾けていれば、神殿が、間もなく崩壊すると分かりました。そうすれば、彼らは、神はマカバイと共におられたように、ローマと戦う自分たちとも、共にいてくださるといふ、偽の希望にはしがみつかなかったでしょう。今日のメッセージ全体の結論は、他のすべての伝統の上にある、御言葉の優位性ではないかと思います。それと、聖書、御言葉を理解すること、また、私達の行い、私達の生き方において、これを全ての第一にすることの重要性です。

そこで要点ですが、私は、今夜のプレゼンテーションについて、ずっと祈っていました。事実、最初は、土曜日にこれを行うつもりでいましたが、ハヌカがまだ祝われている、今日行おうと決めました。多分、クリスマスに向けては、誰もクリスマスに関する事に耳を貸さないだろうと思いますから。ですから、今夜しようと思ったのです。後でご覧いただく事も出来ますから。ただ、皆さんに言っておきたいのは、私がハヌカについて、言及するときは、もちろん、ヨハネの福音書10章の引用で、ハヌカは、旧約聖書には書かれていません。これは、旧約聖書が書かれた後、歴史の中で記録された出来事です。しかし、新約聖書の中では見られます。

興味深いのが、イエスは、ユダヤ人として、——覚えていてください。イエスは、ユダヤ人の家庭に生まれ、彼の習慣は、安息日にシナゴグに行き、トーラーや、預言の書を読んでいたのです。イエスは、ユダヤ人として生まれただけでなく、彼は、ユダヤ人の生活をしていたのです。そして、イエスは、人々にこう言うことも、簡単でした。「ハヌカは、聖書的ではない。だから、わたしはあなたと一緒にエルサレムには行かない。わたしは、聖書的な祭りの時以外、エルサレムには行かない！」しかし、イエスがされたことを見てください。これは、実に賢明です。ところで、これは、私たちがクリスマスに対処し、対応する時に、非常に参考になります。これ、見てください。聖書には、ヨハネ10:22にこう書かれています。

- 22 そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭り(ヘブル語で“ハヌカ”)があった。  
23 時は冬であった。(これは、全てに当てはまります)イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。  
24 それでユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリスト(メシア)なら、はっきりとそう言ってください。」  
(ヨハネ10:22~24)

面白いと思いませんか?誰もが、イエスについて何か感じているのです。彼はメシアかも知れない、と皆が感じているのです。しかし、イエスは、まだそれを明かす時ではないことをご存知でした。イエスは、御父の完璧な御心を行うために来られたのです。彼は、言っています。「わたしは、わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることを、成就するために来たのだ。」(ルカ24:44参照)そして聖書は、ダニエル書の中で、実に明確にしています。

主がメシアとしてエルサレム入りし、メシアとして受け入れられるのは、具体的に、特定の日でなければならない。

この日は、皆が彼のことをメシアと呼び、メシアとして受け入れるのを、イエスが許された唯一の日です。また彼は、黙っていなかっただけでなく、パリサイ人や、祭司たちに言われました。

40 …「…もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」

(ルカ 19:40)

これがその日、西暦 33 年 4 月 6 日、アルタシャスタ王による、エルサレム建設の勅令からびったり 173,880 日後、まさに、ダニエル 9 章が予告した通りです。

メシアがエルサレム入りするまでに、69 週が過ぎ去らなければならない。

ですからイエスは、まだ彼の時ではないことをご存知で、明確な言葉では語らず、それでいて、彼はハヌカの日、エルサレムの神殿におられ、そして、マカバイについて語る代わりに、ハヌカの枝付き燭台に火を灯す代わりに、ドーナツやポテトのラトケスを食べる代わりに、イエスは、大勢のユダヤ人たちがエルサレムにいる機会を利用して、語られました。

それは、ハヌカについてではなく、伝統についてでもなく、宗教についてでも、他の何でもなく、何だったと思いますか？

イエスは、一つの問題について語られたのです。

25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行なうわざが、わたしについて証言しています。

26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたが わたしの羊に属していないからです。

27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けず。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

30 わたしと父とは一つです。」

(ヨハネ 10:25~30)

わお！イエスは、爆弾を落とされました。

私が今週の初め (10/2 アップデート) にお話しした爆弾です。キリストの神性。

「わたしと父とは一つです。」

イエスは、神がその子どもたちに与えられた、全ての約束を伝えておられます。

「わたしは、あなたに永遠の命を与える。」と言われ、

「だれも、わたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」

「彼らは決して滅びることがない」

「だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」

わお！

基本的に、イエスはその答えの中でこの人たちに、エルサレムの神殿の庭でハヌカの最中に語ったのは、ハヌカについてではなく、マカバイ書でもなく、政治的勝利でもなく、ギリシャに勝利したユダヤ人の偉大さでもなく、メノラーに火を灯すことでもありませんでした。

そうでなく、イエスは基本的には、このように言っておられるのです。

「わたしは肉体をまとった神である。」

「わたしと父とは一つです。」

「わたしの羊はわたしの声を知っている。」

「わたしは、彼らに永遠のいのちを与えるために来た。」

「わたしは、彼らが決して滅びないようにするために来た。」

「また、わたしが来たのは、あなた方に伝えるためだ。『だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。』」

以上です。

面白くないですか? イエスは、彼らに福音を伝えたのです。

「もし、あなた方が父を信じるなら、わたしをも信じるでしょう。そうすれば、あなたがたはわたしの声を知り、そして、あなた方は決して滅びず、永遠のいのちを受けるのだ。そして、あなたは、決してわたしの手から奪い去られることはない。もし、あなたがわたしを信じるなら、あなたはわたしの声を知る。それは、わたしがあなたの内に住むからだ。」

興味深いですね。イエスは、福音を語ることを選ばれたのです。

救いを宣べ伝えることを。神の子どもたちに対する、神の約束を。ハヌカの最中に。

しかし彼は、ハヌカについては語りもしていない。

彼はただ、ハヌカの日エルサレムにいたのです。

なぜでしょう? それは、イエスはご存知だったのです。

伝統があり、宗教があり、人々が礼拝する場所があることを。

それなら、その機会を利用しようじゃないか。そして、皆に、よき知らせを伝えよう。

すごくないですか?

では、なぜ私は、皆さんにこんなことを話しているのでしょうか?

これは、ハヌカでした。イエスは、クリスマスについて語られませんでした。

彼は、新約聖書について語られたことは一度もありません。彼は、教会に足を踏み入れられたことは、一度もありません。

イエスはユダヤ人達に、ユダヤ教のことについて、イスラエルの神について、イスラエルの首都の、イスラエルの神の神殿でそれを語られました。そして、彼らに神の約束を伝えられたのです。それも、ユダヤ人にだけでなく、彼のものとなる全ての人に対してです。彼の羊である、全ての人に、彼は、福音とは何であるかのヒントを与えておられるのです。

ところで、間違っただけじゃないですか?

彼は、イスラエルの民に福音を宣べ伝えるために、ハヌカを利用されました。

それは、新約聖書の中にあり、私たち全員が読んでいます。つまり、全世界に宣べ伝えているということです。

面白い事に、聖書のどこにも、イエスがいつお生れになったのか、書かれていません。

イエスがお生れになった日は、唯一、西暦 221 年に、セクトゥス・ユリウス・アフリカヌスによって、言及されています。彼は、最初のクリスチアンの歴史家で、当時、イスラエルに住んでいました。しかし実際には、彼は、多くの古代異教の祭日や、冬至などと混合していて、太陽の誕生とか、その日から、一日がどんどん長くなったとか、こういった事は、何千、何百年も前からずっとありました。

事実、預言者エゼキエルさえもが激しく反対していたのは、人々が、エルサレムの神殿で太陽を拝み、タンムズを拝んでいた事実です。そして、タンムズや太陽を拝むというのは、冬にかけて、太陽が沈んでいき、そして、冬から夏にかけて、太陽が戻ってくる というものです。

ともかく、異教の神々を拝む事は、神によって禁じられ、裁かれていたのです。

それは、ギリシャとローマの世界だけでなく、ユダヤ人にまで受け入れられていた、異教の慣習でした。

ところで、その為に、神の御霊が神殿を去ったのです。

エゼキエル 8 章、9 章、10 章を見れば、ゆっくりゆっくりと、神の御霊が去るのが分かります。そして、11 章ではすでにオリブ山にいて、神は神殿を去ったのです。

もはや、イスラエルの神殿、イスラエルの神の神殿に、神の御霊がいなかったのです。

それは、冬至が、エルサレムで、ユダヤ人によって拝まれていたからです。

ですから、私が言いたいのは、彼らが冬至に目を奪われていたから、神はイスラエルを裁かれ、イエスは、ハヌカの時期にエルサレムにいて、ハヌカについて語っておらず、福音を語っておられるのです。

この両方から、私達は、何を見い出しますか？

私たちに分かるのは、両方の真の本来の異教の神々の根源、または、両方の祭りの伝統的な根源は、横に置くことが出来る、また、そうすべきです。

そして、これらの祭りは、たった一つ目的のために、祝うことが出来、またそうすべきです。

福音を宣べ伝えるため。

ところで、キリストの誕生は重要ですよ。

私たちには日付は分かりませんが。また私は、絶対に12月25日でないことは知っています。

しかし私に言えるのは、預言者イザヤが、処女から生まれる男の子について語っています。

そしてその子の名前は、インマヌエル、神が私たちとともにおられる。

ですから、イエスの誕生といえば、赤ん坊の彼についてではなく、彼の神性について語りましょう。

イザヤ書は、私たちに御子が与えられるということについて、告げています。

## 6 …「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

(イザヤ 9:6b)

面白くないですか？男の子の別の名前は、また、父でもあり、男の子の名前が、神であるなんて。

つまり、御子と御父は一つなのです。

ですから、クリスマスを祝うことに反感を覚える人達、異教の儀式であるために。

あなたの言いたいことは、私もよく分かります。私にも、よく理解できますよ。

ただ、覚えていてください。

イエスは、ユダヤ人が伝統化し、何か祝うべき聖なるものとしたもの、後にユダヤ人にとって罟となるもののためにエルサレムにおられたのです。

イエスは、その機会を利用されました。

「イエスは、ハヌカを祝われたのか？」とよく聞かれますが、

彼は、はるばるエルサレムまで行かれました。

それに関わっていない限り、ガリラヤから、歩いて10日も14日もの距離を行く人はいませんよ。

では、イエスがハヌカを祝われたのは、私達が、ハヌカを祝わなければならないためか？

いいえ！イエスが、ハヌカのお祭りの時、そこにおられたのは、メッセージを伝えるためです。

そのメッセージとは、

「わたしが神である。」

そして、皆さんが理解しておくべきなのは、世界中の全ての異端、全てのカルトは、全員、イエスが良い人であった事には同意するでしょう。

しかし彼らは常に、彼の神性を否定します。

もし、その人が本物かどうかを確かめたければ、聖書的にイエスの神性についての話をすれば分かります。

イエスは、ここエルサレムにハヌカの時・冬におられて、イスラエルの人々に告げておられたのです。

「わたしと父は、一つです。」

面白いと思いませんか？公認底本、ギリシャ語で書かれた新約聖書の第一ヨハネ 5:7 には、次のように書かれています。

「天にはあかしするものが三つあります。父と、ことば、(イエスがことばです)、それと聖霊、これらは一つです。」

ちなみに、新約聖書のある訳では、この節が取り除かれています。

しかし、公認底本には、ここに書かれています。

ですから、私たちは、父とことば、神の御子は、ヨハネ1章によればことばです、それと聖霊が一つである、ということの確証を目にしました。

イエスが、「わたしと父とは一つです。」と言われたのです。

ですから理解してください。

イエスは、叱責され、十字架にかけられましたが、その告発は、彼が自分をメシアだと言ったことではありません。

ユダヤ人達は、彼に対しては問題なかったのです。彼は、彼らのメシアに関する理解には当てはまりませんでした。彼らはここに留まり、エルサレムで統治してローマを追い出す、政治的なメシアを待ち望んでいました。

それでも、彼らにとって問題は、「わたしがそれである」とか、「わたしはメシアではない」とか、そこではなく、ユダヤ人達が問題を持ち始めたのは、イエスが「わたしと父は一つです。」と言ったことです。

ところで、聖書には彼が次のように言ったと告げています。

31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。

32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」

(ヨハネ 10:30~31)

面白くないですか? イエスは言われました。

「ほら、好きなようにしなさい。ただ、わたしが何を行なったために、あなたがたはわたしを石打ちにするのか、言いなさい。」

ところで、彼らも正直に言っていますよ。

33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのために、あなたを石打ちにするのではありません。冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」

(ヨハネ 10:33)

わお。彼らが言ったのです。

「私たちは、あなたのしたことに対しては何も問題はない。私たちは、あなたは良い人だと思っている。あなたは、本当に素晴らしいことをした。私たちが問題にしているのは、あなたが、自分を神と比べたことだ。あなたは、ただの人間に過ぎない。」

イエスは、ハヌカを利用して、人々に知らせたのです。

「わたしは、人間ではない。わたしは人だが、肉体をまとった神である。」

「わたしは、父の家から来たのだ。わたしは、あちらを去って来たのだ。わたしは、王室の装いを脱いで、あなたがたに見えるものを身にまとったのだ。」

「わたしはここにいる。わたしは、神のことば、神の御子である。わたしは、肉体をまとった神だ。つまり、父とわたしは一つだという意味だ。『父と、ことばと、御霊は一つ。』(第一ヨハネ 5:7)」興味深いですね。

最後に、次のことをもって締めくくりたいと思います。

クリスマスに葛藤している人達へ、私の大好きな聖句をもって次のことを伝えます。

これは異教の祭りであり、多くの異教の儀式がある事を予測しながらも、イエスは、ハヌカにエルサレムに行かれたことを覚えていてください。そしてそれは、ハヌカを祝うためではありません。しかし、物理的に彼はそこにいました。彼は、人に取り囲まれていました。

彼はエルサレムにいて、彼は、はるばる歩いて行ったのです。彼は、国の一員、彼の国民の一員でした。そしてそれを利用して、彼らに真理を伝えたのです。福音を。そして、そこにいた信者への約束を。

皆さん全員に思い出して欲しいと思います。第一コリント 9章です。

これは、私の大好きなものの一つですが、念頭に置いておいてください。第一コリントで、元超正統派ユダヤ教徒のパウロが、コリントの人々に対して書いています。

コリントは、最も異教の国で、当時のソドムとゴモラでした。

そこへ彼は、当時、世界中で最も道徳的に墮落し、最も道徳的に病んだ町の人たちに書いているのです。私はコリントへ行ったことがあります、美と愛の女神の神殿があつて、そこは、何千人という女性の巨大売春宿のようでした。女性たちはそこで、誰であれ世界中から来た男たちに、性的な奉仕をするのです。それは基本的に、表面的には“聖なる奉仕”と言いますか。最も世俗的な人間の不品行です。それが、コリントでした。そして、パウロは第一コリント人への手紙9章で、こんな事は一切容認しなかった、あの、超正統派ユダヤ教徒が、彼のかつての人生では恐らく、これらの一切から彼は遠ざかっていたでしょう。彼は、自身の自己義認によって、これら全てから遠ざかっていたでしょう。しかし19節から23節で、彼の言っていることを聞いてください。

全部をお読みしますので、皆さんがご理解くださることを願います。彼は言いました。

19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。

(第一コリント 9:19)

まるで、イエスのようです。イエスは、パウロの個人教師だったのです。

彼は、すべての機会を使って、出て行き、利用しなさい、とパウロに教えたのです。人を軽蔑せず、機会を逃すな、と。それから、彼が言っている事を見てください。

20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。

21 律法を持たない人々に対しては、——私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、——律法を持たない者のようになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。

22 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。

23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをともに受ける者となるためなのです。

(第一コリント 9:20-23)

わお!

ですからあなたも、異教だからと言ってクリスマスを否定する前に、ただの伝統だからと言ってハヌカを否定する前に、この両方を利用して、瞬間をとらえ、機会をとらえて、福音を宣べ伝えませんか?

「私は絶対にこれを祝わない!」とか、「私は絶対にこんな事はしない!」と言うのではなく、その一員になるのです。

なぜなら、あなたは木を拝んでいるわけでもないし、あなたは、サンタクロースを拝んでいるのでもありません。

それは、あなたではありません。

そしてあなたは、皆がそれをするのを見ながら、そこにいて、彼らを批判するのではなく、福音を伝えるのです。彼らに、クリスマスが何であるのかを伝えるのです。

そして、あなたがイザヤ書7章に行き、イザヤ書9章に行き、ヨハネ10章に行くのです。

あなたは御言葉に行く、それがポイントです。

あの異教や伝統の祭りの中でさえ、あれらは聖書的ではありませんよ。

しかし、聖書を権威として使うのです。彼らに福音を伝えるために。良い知らせを伝えるため、真理を伝えるために。

真理とは、イエスは神である、ということ。真理は、人の姿をして来られたということ。

そして真理とは、イエスがあなたのために死なれたということ。そして真理とは、あなたが救われるためには、イエスが必要である、ということ。

それから真理とは、イエスがあなたを自由にくださる、ということ。

そして真理は、もしあなたがそれを行うなら、あなたは救われ、あなたはイエスの声を聞きます。

そしてあなたは、すべての邪悪から救われ、永遠のいのちを持つのです。



一つ、私たち全員が恐れているのは、死です。そして世界が死を恐れる理由は、それが終わりだからです。死とは最終的なもので、あっちに行って、戻ってくることは出来ません。

それまで、最終です。

信者でない人にとって、死は、神から離れることを意味します。

信者にとっては、死は、主の臨在です。

ですから、あなたが信者でない限り、あなたが死ぬと、あなたを待っているのは、裁きだけです。しかしもし、あなたが信者ではなく、そして、まだ死んでいないなら、あなたには、まだチャンスはあるのです。携挙が起こる前に、イエスをあなたの主、救世主として受け入れてください。

このために、私達信者はみんな、どこでも、すべての人に、すべてのものになるべきなのです。福音のために。といっても、彼らがしていることを、私達がする必要はないのです。

私たちは、コリントの売春宿に入って行く人ようになる必要はありません。

パウロは、そんなことをしていません！

パウロは、それに反対して語っています。

しかしパウロは、コリントの人達に手紙を書いて 言ったのです。

「あなたがたは知っててください。時には・・・

あなたの周辺の人全員が、同じ考えではありません。ですから、あなた方は、利口になって、彼らの言うこと、彼らの生活を使って、彼らに福音を伝えるのだ。」

彼らが律法の下にいるなら、分かった、私もそこにおいて、彼らの話を聞こう。私は彼らを避けたり、彼らを遠ざけたりしない。しかし、私が話す順番が回ってきたなら、私は福音を伝えよう。

イエスは、ハヌカの日、エルサレムにいました。冬の季節でした。

彼は、叱責することも出来ました。

「なぜ、ハヌカを祝っているんだ！聖書的ではないのに！」

しかし彼は、その代わりに、よき知らせを伝えました。

もちろん、彼らは気に入りませんでしたよ？彼らは、イエスが自分たちの期待していたメシアではないという事実が、気に入らなかったのです。

彼らは、メシアが人ではないということすら、理解していませんでした。

イエスは、肉体をまとった神です。

イエスが戻って来られるのを見る時、彼らは、それを理解します。

そしてゼカリヤ 12 章が告げている通り、彼らは、嘆き悲しみます。

しかしそれまでは、とにかく、彼らは理解しなかったのです。

だからと言って、イエスが彼らに真理を伝えなかったという意味ではありません。

そして彼らが、今にもイエスに石を投げようとした時、主は落ち着いて、彼らに聞きました。

「わたしがこんなことをされるような事を一つでもしたのなら、言いなさい。」

ところで、ヨハネ 10 章について、聖書は告げています。

これらの後、彼が、彼らに福音を伝えた後、実は彼はエルサレムを去り、はるか荒野まで行かれました。

39 そこで、彼らはまたイエスを捕えようとした。しかし、イエスは彼らの手からのがれられた。

40 そして、イエスはまたヨルダンを渡って、ヨハネが初めにバプテスマを授けていた所に行かれ、そこに滞在された。

41 多くの人々がイエスのところに来た。彼らは、「ヨハネは何一つしるしを行なわなかったけれども、彼がこの方について話したことはみな真実であった。」と言った。

42 そして、その地方で多くの人々がイエスを信じた。

(ヨハネ 10:39~42)

人々は信じました。それだけでなく、多くの人が信じたのです。そこで、私たち全員に対する私の祈りは、叱責したり、批判したり、怒ったり、この祭りの事で大騒ぎをする代わりに、私達は、この機会を利用出来ますように。

今、ユダヤ人たちはエルサレムでハヌカを祝っています。他の世界では、クリスマスを祝っています。異教のルーツだとか、異教の何だと彼らを裁くのではなく、イザヤ書に戻りませんか?そして彼らに、クリスマスの本当の意味を伝えましょう。

ところで、皆さんに言うておきますが、教会の最初の200~300年は、実は、誰も誕生日を祝いませんでした。誕生日は、歴史の中でずっと後になってからのもので、彼らが祝ったり、記念していたものがあるとすれば、それは、殉死、もしくは人の死です。

当時、誕生日は祝われていませんでした。ですから、1世紀の人たちは誰もクリスマスを祝っていなかったことは、間違いありません。2世紀でもしてなかった事は確かです。

しかし、一つ言えるのは、私たちには喜ぶ権利があります。

ひとりの男の子が、私たちに与えられたのですから。

私たちには喜ぶ権利があります。処女がみごもったのですから。

そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。神が、私たちとともにいてくださる。

私たちには、主のこの世への訪れを祝う権利があります。私たちには、福音を祝う権利があります。

救いの祝いも。贖いの祝い、永遠のいのちを祝うことも。

私たちは、彼のものであり、誰も彼から私達を取り去る事は出来ないという事実を祝い、

私たちは朽ちていくのを見ないことを祝い、私たちには、もはや死が何の力もないことを祝います。私たちは、これらのことを祝えるのです。

私たちは、全世界にこれらのことを伝えることができるのです。

ハヌカであれ、クリスマスであれ、私たちはこれらの瞬間を利用できるのです。パウロがコリントの人々に言ったように、

「あなたがたは、ものすごい異教の町にいる。恐ろしいことだ。

しかし、利口であれ。これらのことを利用して、福音を伝えるのだ。できる限り多くの人々が救われるように。」

皆さんに、もう一つ、お勧めしたいのは、

私の良き友人である、Barry Stagner 牧師が、「Still Water」というタイトルの、素晴らしいディボーションの本を書きました。皆さん全員にぜひ入手して欲しいと思います。

私はこれにとっても祝福されましたから、きっと、皆さんも祝福されると思います。

BarryStagner.com で購入可能です。電子版と、印刷されたものがあります。

皆さんの祝福となるでしょう。

1年間の日々のディボーションです。

それからもう一つ、私たちはまだ、フェイスブックとユーチューブで、たくさん問題があるのを見えています。ですから皆さん、ご自分が登録しているかどうかご確認ください。

それから、ベルをクリックして、ユーチューブとフェイスブックからお知らせが届くようにしてください。

ユダヤ人の皆さんには、ハヌカのお祝いを申し上げます。

クリスチャンの皆さんには、メリークリスマス!

皆さん、どうか、一つのことを覚えていてください。

大切なのは、太陽ではありません。そうでなく、義の御子、神の御子です。

大切なのは、唯一、イエスから与えられる救いです。

ですから皆さん、以上のことをお勧めします。それから、私たちとつながっててください。

皆さんを愛していますし、皆さんの声も聞きたいです。

では、お祈りしましょう。

お父様。ありがとうございます。今日、私たちにくださったあなたの御言葉に感謝します。

私たちにたくさんの希望を与えてくれる 聖書に感謝します。

お父様。イエスの御言葉に感謝します。イエスがパウロに伝達された言葉に感謝します。

多くの人々が救われるため、私たちも全ての人のために、全てのものとなれますように。

あなたに感謝します。2000年前のハヌカを通してさえ、多くの人々がイエスを信じました。

あなたに感謝し、祈ります。このホリデーシーズン、どうか、私達を用いてください。

伝統の伝達でなく、味気ない異教の儀式を伝えるのでもなく、純粋な福音、良い知らせを伝えられるように。

私たちがイエスを信じるなら、永遠のいのちがあること、素晴らしい約束があること、

ただの人ではなく、肉体をまとった神として、イエスと御父と聖霊は、確かに一つです。

そのことに感謝します。

私たちは、死んだ人を礼拝しているのではなく、生ける神を礼拝しています。

イエスの御名によって。 アーメン！

アーメン。

ありがとうございます。エルサレムより、シャローム！素晴らしい週をお過ごし下さい。

イスラエル北部の状況が、ある時点に到達したら、アップデートを行おうと思っています。おそらく、土曜日か日曜日になるでしょう。

ありがとうございます。 I love you! God bless you! シャローム！ さようなら。